

# 枚方市障害者計画（第4次）の令和5年度進捗状況一覧

## 1. 市民啓発及び地域との交流の推進

資料1-2

### 1 多様な啓発の推進

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 人権・人命の尊重	人権尊重のまちづくりへの総合的取り組み	人権尊重の理念の浸透と障害者への差別をはじめ、あらゆる差別の撤廃に向け、啓発や学習を進めていきます。	人権尊重のまちづくりを実現するために、枚方人権まちづくり協会へ委託し、講座「生きること」、人権文化セミナー、人権週間事業及び北朝鮮人権侵害問題啓発週間事業を実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	人権政策課
			①人権教育担当者を対象に研修会を実施しました。 令和5（2023）年11月22日（水曜日） テーマ ネット人権侵害と部落差別の現実～「寝た子」はネットで起こされる～ 講師 一般社団法人山口県人権啓発センター 川口 泰司 さん ②地域人材等の活用による職業講話、職業体験等を通して生徒は障害に関する理解を深めました。 ③枚方市PTA協議会の中に子ども人権啓発委員会等を組織するとともに、家庭や地域との連携を深め、人権意識の高揚・啓発を積極的に推進しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	支援教育課
	職員研修の実施	障害に関する理解を深めるため、人権や障害に関する職員研修を行います。また、手話研修など、障害への認識を深める取り組みを継続します。	新入職員を対象とした研修において、障害者差別解消法に関する知識習得のため、担当部署の職員より説明を受ける機会を設けました。加えて、車いすや視覚障害のある方への誘導や案内方法について体験し、障害のある方への理解を深める研修も実施しました。（61人参加） 手話研修は公募により、講義「聴覚障害への理解」及び「手話演習」の全4回を実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	人事課
			新入職員や新任課長、障害企画課及び障害支援課の新任担当者に対し、障害に関する理解を深めるための研修を行いました。また手話研修や外部研修への参加等により、障害への認識を深めるよう取組みました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課 障害支援課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(2) 虐待や差別の防止	障害者の権利擁護と成年後見制度の利用援助の充実	知的障害者、精神障害者、認知症高齢者等の権利擁護を図るために、成年後見制度について、相談を受け援助できる体制を整備し、事業の充実に努めます。	健康福祉総合相談課窓口・各地域包括支援センターにて成年後見制度の相談対応や制度申請時の書類作成の援助を行っています。市長申立ては17件行いました。中核機関として設置しているひらかた権利擁護成年後見センター（こうけんひらかた）にて広報、相談、制度の利用促進、後見人支援等、支援体制の充実に努めるとともに、福祉サービス利用援助事業とも連携するなど、権利擁護に取り組みました。	現状維持 これまでの取組を継続する	健康福祉総合相談課
			成年後見制度利用支援事業により、報酬助成12件の費用助成を実施し、後見制度を利用する生活保護等の低所得者が、より円滑に成年後見制度を利用できるよう支援しました。市長申立ては1件行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	権利擁護のための制度等の周知	成年後見制度や社会福祉協議会が実施している権利擁護のための取り組みについて障害のある人や家族への周知を図るとともに、広報、パンフレットの発行や窓口等における情報を提供します。	健康福祉総合相談課窓口・各枚方市地域包括支援センターにて相談に対応し、必要に応じ関係機関の紹介、関係資料を配布しました。障害者や認知症高齢者の地域生活を支えるため、社会福祉協議会と連携し、ひらかた権利擁護成年後見センター（こうけんひらかた）や福祉サービス利用援助事業の中で、成年後見制度や権利擁護のための取り組みについて周知を図りました。	現状維持 これまでの取組を継続する	健康福祉総合相談課
			成年後見制度に関するパンフレットを窓口に着用し、成年後見制度の情報を必要とする市民に対し配布し、成年後見制度の仕組みや手続き等の情報提供を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(2) 虐待や差別の防止	虐待への対応	障害者への虐待防止のため、障害者虐待防止センターで、24時間365日体制で相談・通報に対応します。関係機関と連携し、虐待発見後の迅速、かつ適切な対応を図ります。	枚方市障害者虐待防止センターにおいて、随時相談・通報を受付しました。電話による受付は24時間365日対応し、その他市内7か所の障害者相談支援センターの協力を得て、受付を行いました。また虐待の防止、迅速な対応のため、関係機関との連携、情報共有の場として関係機関会議を開催しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	障害者差別解消法への対応	障害者に対する差別の解消に資する取り組みとして、関係機関とネットワーク組織を構築し、情報の収集および共有を図ります。相談事案に対し、関係機関や大阪府と連携し、差別解消に向けた取り組みを推進します。	枚方市障害者差別解消支援地域協議会を開催し、相談事例について意見交換を行いました。また、令和6年4月施行の改正障害者差別解消法に合わせた取組として、委員の所属団体の協力により、啓発リーフレットを活用した市内民間事業者、医療機関、障害福祉サービス事業者への周知・啓発を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
(3) 合理的配慮	障害者への理解を深める教育	小・中学校においては、学年に合わせて、さまざまな障害に関する障害者理解教育を進めます。	○資料の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権教育のための資料」（大阪府教育委員会）</li> <li>・「学校における人権教育推進のための事例集」（大阪府教育委員会）</li> <li>・「人権基礎教育指導事例集」（大阪府教育委員会）</li> <li>・「人権教育の指導方法等の在り方について」〔第一次とりまとめ〕〔第二次とりまとめ〕〔第三次とりまとめ〕（人権教育の指導方法等に関する調査研究会議）</li> <li>・「ともに学び、ともに育つ障害教育の充実のために」（大阪府教育委員会）</li> <li>・「精神障がいについて理解を深めるために」（大阪府教育委員会）</li> </ul> ○市立小中学校における主体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・盲導犬に関する講話の実施</li> <li>・点字・拡大教科書や手話に関する学習会、白杖に関する体験学習の実施</li> <li>・地域の障害者通所施設との交流の実施</li> <li>・大阪府立支援学校の児童・生徒との居住地校交流</li> </ul>	現状維持 これまでの取組を継続する	支援教育課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(3) 合理的配慮	情報発信	広報ひらかたやホームページをはじめ、さまざまな媒体を通して、障害や障害者に関する啓発活動及び取り組みなどの情報を広く発信していきます。	広報ひらかたやホームページをはじめ、さまざまな媒体を通して、障害や障害者に関する啓発活動及び取り組みなどの情報を広く発信しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	広報プロモーション課
			各種申請勸奨のほか、講習会（スポーツ講習、手話講習、ガイドヘルパー養成研修など）の開催などについての周知を、広報ひらかたやホームページで行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	イベントの開催	障害や障害者への理解を促すため、啓発イベントやキャンペーンを開催します。	障害者への理解及び認識を深める機会として、講座「生きること」 10月17日渡邊洋次郎さんによる講座 「生き直し～人は強制力では変わらない。変わるとしたらそれは自分の中に息づく愛を知った時～」を開催しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	人権政策課
			障害のある人が地域でいきいき活動できる社会実現をめざすイベント「ほっこりひらかた2023」として映画上映会・講演会のイベントを開催しました。令和5年4月2日にカリヨンの鐘（ヒラリヨン）のライトアップにより、「世界自閉症啓発デー」普及啓発の取組を行いました。また、手話は言語であるという認識のもと、手話への理解と普及促進に向けた取り組みとして、国連が定めた9月23日の「手話言語の国際デー」当日にはヒラリヨンのブルーライトアップを実施するとともに、令和6年1月27日にひらかたパークにて開催された「枚方市手話普及イベント（バスケットボール教室&デフバスケットボール体験会）」において手話体験コーナーを実施し、手話の普及啓発に取組みました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
		障害や障害者への理解を促すため、啓発イベントやキャンペーンを開催します。			

## 2 地域との交流

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 地域福祉活動	地域福祉活動の普及	市民が主体的に担う地域福祉活動を促進するため、多様な学習の機会や広報によって、地域福祉の考え方の普及を図るとともに、活動の紹介などを行います。	令和5年度においては、「災害時における身近な備え」をテーマとして地域福祉セミナーを開催しました。災害発生時における、地域住民の支え合いの大切さや災害ボランティアについて講演いただき、地域福祉を学ぶ場として市民の方に受講いただきました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康福祉政策課
	「地域福祉計画」の推進	「枚方市地域福祉計画」の着実な実施により、社会福祉協議会等関係団体と連携し、市民による地域福祉活動の支援を充実させます。	令和5年度においては、地域福祉計画に紐づくすべての事業を推進することができました。特にCSW事業においては、地域福祉活動団体からの相談が寄せられ、活動への支援を行うことができました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康福祉政策課
			上位計画である「枚方市地域福祉計画」と整合を図りつつ、策定された第4次枚方市障害者計画、枚方市障害福祉計画（第6期）及び障害児福祉計画（第2期）を策定しており、令和4年度の、進捗状況等の確認を行うとともに、第4次障害者計画の中間見直し、枚方市障害福祉計画（第7期）及び障害児福祉計画（第3期）の策定を行いました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害企画課
			令和3年度から令和5年度までを計画期間とした「ひらかた高齢者保健福祉計画21（第8期）」について、関係課において計画に掲げた各取り組みを推進しました。また、次期計画として令和6年度から令和8年度を計画期間とした「ひらかた高齢者保健福祉計画21（第9期）」を策定しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康福祉政策課
			「いきいきサロン健康づくりサポーター養成」として、地域における自主的な介護予防活動を実践する人材の育成や支援を図るボランティアの育成等を行っています。令和5年度は、介護予防ツールを活用して、簡単な介護予防活動を取入れることができるよう、講座を1回開催しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康づくり課
			妊娠届時には保健師や助産師が全数面接相談を行い、妊娠・出産・子育てに関する相談および情報提供を行いました。また、妊産婦及び乳幼児の保護者を対象に、乳幼児健康相談・母子電話来所相談・母乳相談・栄養相談・個別発達相談を実施しました。継続支援を必要とする場合には、地区担当保健師が家庭訪問等を行い、必要に応じて関係機関と連携しながら継続的に支援を実施しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 地域福祉活動	ボランティア活動支援体制の整備	社会福祉協議会（枚方市ボランティアセンター）等と連携して、ボランティアが円滑に活動できるよう必要な環境整備を図ります。	社会福祉協議会（枚方市ボランティアセンター）では、ボランティアグループ連絡会や市内のボランティアグループと連携し、支援を必要とする人とボランティアをつなぎました。またボランティア同士の情報交換や活動交流等を行い、活動者のサポートに取組みました。 その他にも、災害時に関する災害ボランティアを募り、ボランティアセンターに登録する事業にも取り組みました。	現状維持 これまでの取組を継続する	健康福祉政策課
	ボランティア体験の推進	枚方市社会福祉協議会（枚方市ボランティアセンター）等と連携して、誰もが参加できるボランティア体験事業を推進します。	社会福祉協議会（枚方市ボランティアセンター）では、市民向けボランティア講座の開催やボランティア体験プログラム等を通じて、ボランティア活動の啓発や活動のきっかけ作りの場を定期的に開催しました。希望者はボランティアグループ等と連携し、継続したボランティア活動に繋がりました。 また小・中学校と連携し福祉教育の一環として福祉体験講座を実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	健康福祉政策課
(2) 地域交流の推進と居場所づくり	交流機会の充実	サービス事業者等と連携し、障害の有無に関わらず共に楽しめるレクリエーションや文化・スポーツ活動等の交流機会の充実を図ります。	障害者等の交流を図るイベント「ジョイフルクリスマス会」及び「ふれあいスポーツ交流会」を開催しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	身近な居場所づくり	障害者が日常的に、気軽に立ち寄り時間を過ごせる身近な交流拠点を、地域活動支援センターとの連携によって確保します。	市内9か所の地域活動支援センターでは、障害者が日常的に気軽に立ち寄り、時間を過ごせるよう、様々な創作的活動や生産活動のメニューを用意し、多くの方が利用しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課



## 2. 障害者（児）が安心できるまちづくり

### 1 公共施設の整備等

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) バリアフリーの整備	公共施設の整備・改善	誰もが利用しやすい公共施設をめざし、学校施設ほか市有施設の整備・改修に際し、多目的トイレ、スロープ等を設置し、バリアフリー化を進めます。	小学校及び中学校のトイレ改造工事（小学校24件、中学校9件）により、廊下とトイレの段差解消や、バリアフリースロープ及び手摺の設置等を行いました。今後も利用しやすい公共施設をめざし、整備に努めてまいります。	現状維持 これまでの取組を継続する	施設整備課
	公園の整備・改善	すべての利用者がより円滑に利用できるよう公園施設の更新、改修、撤去等を行い、バリアフリー化を順次進めます。	開発行為に伴う提供公園の計画段階において、バリアフリー化の指導を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	公園みどり課
	駅及び周辺のバリアフリー化	障害者が安全で快適に移動できるよう、「枚方市交通バリアフリー基本構想」等に基づき、今後も歩道段差の解消、点字ブロックの敷設など歩道のバリアフリー化を図るとともに、利便性や安全性の向上促進を図るため関係機関等との連絡調整を行います。	当事者及び交通事業者等で構成する「枚方市バリアフリー推進協議会」を開催し、令和5年5月に改訂された「大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン」について情報共有を図るとともに、バリアフリー基本構想に基づく道路特定事業計画をはじめ、各事業者からのハード・ソフト両面からの取り組み内容の報告を行い、当事者との意見交換を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	土木政策課
			津田春日線（津田駅周辺地区）及び阪第17号線（牧野駅周辺地区）において、令和5年度完成に向けて障害者ならびに高齢者が安全かつ円滑に通行することを目的として歩道横断部の勾配改良や段差解消に加え、視覚障害者誘導用ブロックの改良やタクシー乗降場のスロープ設置及び身障者乗入場の新設等、駅及び周辺のバリアフリー化整備工事を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	道路河川整備課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) バリアフリーの整備	歩道環境の改善	障害者の通行の妨げとなる放置自転車や違法駐車、不法占用物を撤去するとともに、市民啓発を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放置自転車等の撤去及び市民啓発を進めました。</li> <li>・不法占用物の撤去及び市民啓発を進めました。</li> </ul>	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	道路河川管理課
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方市駅周辺を「めいわく駐車防止重点地域」とし、自動車および50cc超のバイクに対し、交通指導員によるめいわく駐車防止の啓発を行っています。 チラシ配布車両台数 2,061台</li> <li>・条例に基づき、鉄道駅周辺に放置している自転車、ミニバイク（50cc以下）の指導・警告・移送を行いました。 警告車両台数 9,741台      移送台数 599台</li> </ul>	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	交通対策課
	交通安全施設の設置	道路交通環境の改善を図るため、ガードレール、カーブミラーなど交通安全施設の整備を進めます。	交通安全施設整備の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全柵 90m      ・カーブミラー 16基</li> <li>・区画線 17,241m      ・ポストコーン 15本</li> </ul>	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	交通対策課
	福祉移送サービス	障害者の社会参加の機会を拡充するため、サービスの提供事業者の確保と共同配車センターの充実に努めます。	福祉移送サービス事業者として、市内の10事業者が国への登録を行い、障害者や高齢者に移送サービスを提供しました。また、共同配車センターへは、5事業者が登録を行い、サービスを提供することで、障害者の社会参加の機会の拡充に取り組みました。	<b>見直し</b> 取組の手法や、要件、対象、事業規模などを見直す	障害支援課



施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) バリアフリーの整備	グループホームの拡充・改善	新規開設や、定員増加を伴う整備を行う事業者へ支援を行い、グループホームの整備促進を図ります。	市内にグループホームを新規に開設、又は定員を増加するための増設をする事業を行う際に、枚方市グループホーム新規開設等整備補助金を交付することにより、グループホームの整備を図るとともに、障害者の地域以降促進を図りました。なお、令和5年度より、市内のグループホームにおいてより重度の障害者の地域移行を促進できるよう要綱改訂を行い、名称を枚方市グループホーム重度障害者対応改修補助金と変更しました。 交付実績：1事業所（バリアフリー化工事1件）	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	住宅改造助成	重度障害者に対する住宅改造費の一部助成については、さらなる周知を図り、利用の促進に努めます。また、必要な対象者がより活用しやすい要件とするなど、制度拡充をめざします。	令和5年度の利用実績は25件でした。本制度を活用したことにより、障害者および介護者の日常生活での安全性・利便性の向上を図ることができました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	住まいに関する相談と情報提供	住宅を含めた生活全般に関する相談を、市内の相談支援事業者等で実施していくとともに、情報収集・提供に努めます。	市内7か所の相談支援センター及び、市内の相談支援事業者等で、住宅を含めた生活全般の相談を実施しました。また、福祉事務所 障害企画課においても、情報収集・提供に努めました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課

## 2 保育・療育・教育の充実

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	乳幼児健康診査の推進	乳幼児健康診査・新生児聴覚検査において、障害の早期発見・早期対応に努めます。また、健診時やその後のフォローを通じて保護者の育児支援に努めます。	乳幼児に対して、各時期に健康診査を実施し、疾病や障害の早期発見・早期対応を図り、その保護者に対して子育てに関する相談・保健指導を実施しました。保健センターでの集団健康診査（4か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査、3歳6か月児健康診査）、府内医療機関での個別健康診査（乳児一般健康診査、乳児後期健康診査）を実施し、経過観察が必要な場合は、小児神経科医や児童精神科医等による二次健診及び心理相談員による個別発達相談を実施しました。さらに聴覚障害の早期発見、早期療育を目的に、新生児聴覚検査の費用助成を行っています。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター
	早期対応の充実	健康診査等の結果、発達の経過観察が必要な子どもと保護者に対し、発達相談等において助言・指導を行い、必要に応じて療育や医療との連携を図ります。また、乳幼児健康診査事後指導事業（親子教室）においては、小集団での親子の保育を通じて、保護者の育児支援等、早期の対応に努めます。医療機関から在宅生活へ移行する身体障害児及び長期療養児については、退院前から医療機関と連携し、退院後も円滑に医療・療育が受けられるよう支援します。	健康診査の結果、発達の経過観察が必要な子どもと保護者に対し、小児神経科医や児童精神科医による二次健診及び心理相談員による個別発達相談、保健師による家庭訪問を実施しました。継続的な個別支援が必要と思われる子どもと保護者に対しては、乳幼児健康診査事後指導事業（親子教室事業）を実施しました。通室は週に1回行うものとし、子どもの年齢や発達の特徴からグループ分けを行っています。保育内容は各グループの特徴に応じて設定し、保護者の育児支援に努めました。療育や医療が必要な場合には、医療機関やひらかた子ども発達支援センター等へ紹介し、連携を図りました。また新たなグループとして乳児後期健康診査から運動発達に経過観察が必要と思われる児と保護者を対象としたグループを開始しました。医療機関から退院後、継続して医療的ケアが必要な子どもについては、退院前から医療機関や訪問看護ステーション等と連携し、円滑に在宅生活へ移行できるよう支援しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	療育の充実	個別療育、保護者指導等、きめ細かな療育の提供を対象児童に行います。市立ひらかた子ども発達支援センターにおいては、日々の生活を基盤とした個別・集団的な療育を実施するほか、医師の指示の下、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を用いて、個々の状況に応じたりハビリテーションを実施し療育の充実に努めます。	検診、進学等障害児の状況に合わせ、関係機関にてケース情報の引継ぎ等の連携を行いました。また、「枚方市障害児等関係機関連絡会議」を概ね2ヶ月に1回開催（実務者会議、代表者会議）し、参加関係機関から、報告及び情報の共有を行い、教育分野の障害児支援についてや、留守宅の巡回相談に関する知識の向上を図りました。進路担当者と障害支援課、障害者相談支援センター等で進路相談会を開催し、障害福祉制度の説明を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
			市立ひらかた子ども発達支援センターにおいては、通所児に対して、障害児相談支援でたてた計画を元に日々の生活を基盤とした個別・集団的な保育・療育を実施しました。また、コロナ禍の中で限定的であった他園との交流についても、新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたことを踏まえ、交流の回数や内容を充実し実施しました。このほか、医師の指示の下、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を用いて、個々の状況に応じたりハビリテーションを実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	ひらかた子ども発達支援センター
	地域療育の推進と地域との連携	市立ひらかた子ども発達支援センターにおいては、発達上支援を必要とする子どもとその保護者を対象に、「地域支援事業」を実施し、遊びや集団の場を通じて経験を広げ、子どもの成長と保護者の子ども理解の促進に努めます。また、子どもの発達や障害についての理解を深め、成長や発達に見通しをもってもらうことを目的に、子育て講座を実施します。母子保健課において、在宅の障害児に対して医師等専門職による相談・助言等を行うとともに、地域療育と連携を図ります。	市立ひらかた子ども発達支援センターにおいては、支援を必要とする子どもとその保護者に対し、集団遊びの場として「地域子育て支援事業“すくすく”」を実施しました。すくすくの定員については、新型コロナウイルス感染症の感染対策として、1グループの定員を制限してきましたが、感染状況及び通所希望ニーズを踏まえ、定員を増やし運営しました。また、発達上支援や配慮が必要な子どもについて、同じ悩みを持つ保護者が語り合う場としてすくすく懇談会を9回開催しました。子どもの発達や障害についての理解を深め、成長や発達に見通しをもっていただくことを目的として、子育て講座を3回開催し地域療育の推進に努めました。	現状維持 これまでの取組を継続する	ひらかた子ども発達支援センター
			身体障害児や長期療養児に対し、医師、歯科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理相談員、保健師による来所相談や訪問指導を実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	関係機関との連携	母子保健課、療育機関、保育所（園）、幼稚園等から小学校、小学校から中学・高等学校、中学・高等学校から進学先・就職先、就職先から福祉施設へと発達障害のある児童を含め障害児童のニーズに応じた進路の選択が行えるよう、庁内及び関係機関との連携を図ります。また、枚方市障害児等関係機関連絡会議において、障害のある児童及びその周辺の児童（健診等でフォロー児童等）並びにその家族が抱える様々な問題に対して、情報交換、意見交換等を行い、関係機関の連携を図ります。支援度合いが高い障害児や高次脳機能障害児についても必要な情報共有を図っていきます。	療育機関、保育所（園）、幼稚園、小学校等への就園・就学にあたり、ニーズに応じた進路選択ができるよう、関係機関と連携を図りながら保護者支援に努めました。また、枚方市障害児等関係機関連絡会議においては、事務局メンバーとして会議の運営に携わりながら、関係機関の連携に努めました。	現状維持 これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター
			検診、進学等障害児の状況に合わせ、関係機関にてケース情報の引継ぎ等の連携を行いました。また、進路担当者と障害支援課、障害者相談支援センター等で進路相談会を開催し、障害福祉制度の説明を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
			小学校就学前に、就学先の小学校教員が園所に訪問し、就学児の様子把握や職員からの聞き取りを行ったり、園所からも幼児の様子を学校側に伝えたりなど連携を図るとともに、就学する際に、保育所からは要録を、幼稚園からは抄本を学校に送付している。個別の支援計画を立てている幼児や、発達相談を利用している幼児については、保護者を通じて小学校へ情報提供を行うなどの取り組みを行っている。 また、教育委員会との就学相談の機会や、支援学校、支援学級の見学など、保護者へ周知するだけでなく、職員間でも連携会議などを実施している。保育所においては、校長会や私立保育所（園）とも意見交換を行っている。	現状維持 これまでの取組を継続する	公立保育幼稚園課
			「枚方市障害児等関係機関連絡会議」については、大阪府立交野支援学校四條畷校を新たに関係機関に加え、各機関の現状や新たな取組み等について情報共有し、連携につなげると共に関係機関向け研修を実施しました。また、障害や発達上支援を必要とする子どもや保護者が受けることができる公的な制度や支援の内容、相談できる機関等をまとめた「福祉・教育のてびき」子ども版の改訂作業に取り組みしました。	現状維持 これまでの取組を継続する	ひらかた子ども発達支援センター

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	関係機関との連携	母子保健課、療育機関、保育所（園）、幼稚園等から小学校、小学校から中学・高等学校、中学・高等学校から進学先・就職先、就職先から福祉施設へと発達障害のある児童を含め障害児童のニーズに応じた進路の選択が行えるよう、庁内及び関係機関との連携を図ります。また、枚方市障害児等関係機関連絡会議において、障害のある児童及びその周辺の児童（健診等でフォロー児童等）並びにその家族が抱える様々な問題に対して、情報交換、意見交換等を行い、関係機関の連携を図ります。支援度合いが高い障害児や高次脳機能障害児についても必要な情報共有を図っていきます。	就学前施設、小学校、中学校、高等学校と連携をしていき、個々のニーズに沿った支援ができるように個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成し、支援に努めました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	支援教育課
			障害のある児童や発達面・生活面などで気がかりのある児童に対して、スムーズな受け入れや適切な保育を実施するために、入室前に放課後子ども課が保護者に対して、電話で児童の発達状況を聞き取っています。聞き取った内容は、課内職員、児童会室職員、ブロック（地域）担当と共有しています。また、保護者の了解の下、出身保育所（園）・幼稚園、及び学校等と情報交換を行い、連携を行いました。	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	放課後子ども課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	保育と就学前教育の充実	保育所（園）・幼稚園等において、「ともに生き、共に育つ」保育を実施するとともに、職員の研修や必要な人材の配置等により、障害のある子どもの支援体制の強化を図ります。	公私立保育所（園）において、集団保育を必要とする障害児に、「共に生き、共に育つ」保育を推進しています。保育所入所後のフォローとして、巡回相談・保育相談を実施しました。また、障害児保育に関わる職員の保育の質の向上を目指し、障害児保育研修会（公私立52ヶ所）、障害児保育担当保育士研修（公私立44ヶ所）をオンラインにより実施しました。 また、公立幼稚園においては、「ともに学び、ともに育つ」教育の充実を図るため、障害の状況に応じた適切な教育課程を計画的・系統的に編成し実施するとともに、支援を必要とする幼児が在籍する公立幼稚園（6園）に支援教育担当及び生活支援員を配置し、支援体制の充実を図りました。 また、支援教育に関する専門性を高め、障害のある子どもの指導・支援等、様々な課題に対応できる人材の育成に向けて、園内研修や支援会議等を定期的実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	公立保育幼稚園課
			子ども発達支援センターから依頼を受けて、発達状況を踏まえた指導や障害に対する助言を保育士に行うために、私立保育所（園）への訪問による保育相談を実施しました。実施頻度は、年2回、実施園9園、訪問延べ日数39日、実施延べ人数222人。	現状維持 これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター
			小中学校教員とともに支援教育コーディネーターを対象とした研修や支援教育研修へ参加。	現状維持 これまでの取組を継続する	教育研修課
	放課後等デイサービスの充実	小・中・高等学校に就学する障害児の授業終了後や学校の休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練や支援を行い、療育の充実を図ります。	令和5年度は、8事業所が参入（合計75事業所）し、支給決定人数は1,255人、延べ利用日数は164,674日でした。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	日中一時支援事業の充実	利用しやすい運用に努め、サービスの充実を図ります。	日中一時支援事業は、新規事業者の参入に伴い、サービスの提供も充足され、支給決定者数、利用日数とも年々増加しています。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課



施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	留守家庭児童会室運営事業	平成30年度より、第1学年から6学年まで全学年の児童の受け入れを行っています。障害のある児童については、職員の研修や職員の配置、また学校との連携等により、保育環境や支援の充実を図ります。	留守家庭児童会室では、障害のある児童等の受け入れにあたり、室全体の運営状況を踏まえて適切な人員を配置することで、放課後の遊び及び生活の場の提供に取り組みました。	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	放課後子ども課
	障害のある児童への教育の充実	小・中学校において、個別の教育支援計画等を活用し、障害のある児童等のニーズに応じた適切な教育を行えるように努めます。また、教職員研修の充実や、支援学校などのスタッフ及び専門家による巡回相談を活用しながら、教育の充実を図っていきます。	○障害のある児童・生徒に対する支援の充実について <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援教育コーディネーター支援充実事業（会計年度任用職員講師の配置）</li> <li>・肢体不自由児介助員・学校看護師の配置</li> <li>・障害児機能回復訓練事業（理学療法士、言語聴覚士、作業療法士の派遣）</li> <li>・セルフわらしべ乗馬体験事業</li> </ul> ○市教委主催の教職員研修の充実について <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援教育研修 3回</li> <li>・支援教育コーディネーター研修 3回</li> <li>・通級指導実践研修 1回</li> </ul> ○専門家等による学校支援の充実について <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援教育学校園支援事業（小・中学校への専門家等の派遣）</li> <li>・大阪府立支援学校コーディネーターによる巡回相談</li> <li>・リーディングチーム（通級指導教室担当者）による巡回相談</li> </ul>	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	支援教育課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	障害のある児童への教育の充実	小・中学校において、個別の教育支援計画等を活用し、障害のある児童等のニーズに応じた適切な教育を行えるように努めます。また、教職員研修の充実や、支援学校などのスタッフ及び専門家による巡回相談を活用しながら、教育の充実を図っていきます。	○市教委主催の教職員研修の充実について ・支援教育コーディネーター研修3回 「支援学級における学級経営と授業」「個別の指導計画の作成と活用」、 「学校全体で取り組むポジティブな行動支援～SWPBS～」 「インクルーシブ教育をどうすすめていくの？～多様な子どもがいることを前提とした教育～」 ・支援教育研修3回 「支援学級における学級経営と授業」「個別の指導計画の作成と活用」（支援Co研修と合同開催） 「自分研究のススメ」～自己理解を通じて困っていることに気づく～」、 「発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブッカー特別支援学級編一」 ・中学校初任者研修（9）小学校初任者研修（9）「支援教育の理解と実践」 ・市費負担教員研修（7） 「インクルーシブ教育の視点から学ぶ支援教育」 ・2年目小中学校教諭研修（4） 「子どもたちのステキな行動を引き出す学級づくり」～ポジティブ行動支援～ ・5年目小中学校教諭研修（2）「通常の学級におけるインクルーシブ教育」 ・小中学校10年経験者研修（4） 「すべての子どもに「わかる・できる」を～インクルーシブ教育の理念と実践～」	現状維持 これまでの取組を継続する	教育研修課
	通学支援の充実	ひとりで通学が困難な児童を対象として、保護者の就労や病気療養等のやむを得ない理由がある場合に通学ガイドヘルパーを派遣し、通学の支援を行います。	ひとりで通学が困難で、就労や病気療養等やむを得ない理由により保護者が一定期間通学につき添うことができない障害のある児童、生徒を対象に障害児通学支援事業を継続して実施しています。令和5年度の支給決定者は71名でした。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保育・療育・教育の充実	相談の実施と保護者との連携	障害のある子どもの保護者への相談を行うとともに、保護者と学校の連携強化を図ります。	電話や面談による教育相談を実施しました。また、保護者の相談を受けるとともに、必要に応じて、学校や関係機関との連携を図りました。	現状維持 これまでの取組を継続する	支援教育課
	進路指導の充実	関係機関との連携を強化しながら、卒業後の進路選択の幅が広がるよう、進路指導の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月から10月にかけて、幼稚園、保育所等を訪問し、就学相談を実施しました。</li> <li>・障害のある幼児、児童、生徒の進路について、十分な情報を提供し、進路の支援に努めました。小中学校園で連携し、中学校区で全体指導計画を作成し、夢や志を持ち主体的に自らの生き方を考えさせることができました。</li> <li>・障害のある幼児・児童・生徒の理解や適切な指導の推進のため、支援学校や関係機関との連携を図りました。</li> </ul>	現状維持 これまでの取組を継続する	支援教育課

### 3 災害対策

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 自然災害	避難行動要支援者の把握	地域防災計画に基づき、災害時に必要な支援を実施するため、避難行動要支援者名簿を作成しています。この名簿に登録された方の内、平常時からの情報提供に同意された方について、消防、警察、民生委員、自主防災組織等へ名簿情報を提供しています。また、登録を希望された障害者等の申請に基づき、緊急連絡先等の情報を登録する災害時要援護者避難支援事業を実施しています。	災害時避難行動要支援者名簿を作成することにより把握しています。 名簿登録対象者は、①介護保険の要介護3～5の認定者、②身体障害者手帳1・2級を交付されている身体障害者（児）、③療育手帳Aを交付されている知的障害者（児）、④精神障害者保健福祉手帳1級を交付されている精神障害者（児）、⑤障害者総合支援法に基づくサービスを利用している難病患者。 平時には名簿登録者のうち、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意している対象者の名簿情報を、地域の民生委員等へ提供しており、地域の民生委員等が平常時に名簿情報を活用し、平常時の見守り、災害時の情報伝達、安否確認、避難支援等に役立てています。 避難支援等に必要な範囲において、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意していない対象者についても避難支援等関係者に提供し、災害時の安否確認、避難支援等に活用しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	危機管理対策推進課
			災害時避難行動要支援者名簿を作成することにより把握しています。 名簿登録対象者は、①介護保険の要介護3～5の認定者、②身体障害者手帳1・2級を交付されている身体障害者（児）、③療育手帳Aを交付されている知的障害者（児）、④精神障害者保健福祉手帳1級を交付されている精神障害者（児）、⑤障害者総合支援法に基づくサービスを利用している難病患者。 平常時には名簿登録者のうち、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意している対象者の名簿情報を、地域の民生委員等へ提供しており、地域の民生委員等が 名簿情報を活用し、平常時の見守り、災害時の情報伝達、安否確認、避難支援等に役立てています。 避難支援等に必要な範囲において、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意していない対象者についても避難支援等関係者に提供し、災害時の安否確認、避難支援等に活用しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	介護認定給付課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 自然災害	避難行動要支援者の把握	地域防災計画に基づき、災害時に必要な支援を実施するため、避難行動要支援者名簿を作成しています。この名簿に登載された方の内、平常時からの情報提供に同意された方について、消防、警察、民生委員、自主防災組織等へ名簿情報を提供しています。また、登録を希望された障害者等の申請に基づき、緊急連絡先等の情報を登録する災害時要援護者避難支援事業を実施しています。	「災害時要援護者避難支援事業」における「災害時要援護者名簿」について、平成25年度より災害対策基本法の改正によって義務付けられた「避難行動要支援者名簿」との統合を行い、複数あった災害時要配慮者情報の集約を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	健康福祉政策課
			平成29年度から、毎年度、身体障害者手帳1・2級、療育手帳A及び精神障害者保健福祉手帳1級の所持者など、避難行動要支援者名簿の掲載対象となった方に対して、同意書を郵送し、同意を得られた対象者の情報を掲載した名簿の整備を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
			人工呼吸器の装着や気管切開を行っている難病患者について、災害時の安否確認や必要な支援を行うため、災害時要援護者リストとして情報を管理しています。	現状維持 これまでの取組を継続する	保健予防課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 自然災害	防災意識の高揚と地域での支援体制づくり	防災について啓発を行うとともに、災害時の避難場所や緊急時における連絡方法等の周知を図ります。また、自然な形で支援を受けられるよう、日常的な関係作りを含めた地域支援体制の強化を図ります。	防災に関する出前講座を50回実施し、地域での防災意識を高める取り組みを行いました。 また地域における自主防災訓練への支援を51回実施し日常的な関係作りを含めた地域支援体制の強化を図りました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	危機管理対策推進課
			「災害時要援護者避難支援事業」における「災害時要援護者名簿」について、平成25年度より災害対策基本法の改正によって義務付けられた「避難行動要支援者名簿」との統合を行い、複数あった災害時要配慮者情報の集約を行いました。また、枚方市総合防災訓練（ひこ防Z）では、要配慮者等の輸送協力に関する協定を締結している大阪タクシー協会と連携し、車いすの要配慮者を一時避難所から福祉避難所までタクシーで移送することを想定した訓練を行いました。その他、大阪府D-WATと連携し、避難者へのアセスメントや福祉避難所へのトリアージ訓練等も行いました。	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	健康福祉政策課
			避難行動要支援者の市内小学校区ごとの名簿を整備した他、災害情報カードの配布にかえて、平成31年1月からヘルプカード（必要な支援や連絡先を記載）を配布し、障害者の安否確認から避難誘導、避難所生活などへの配慮が可能となるよう体制整備に取り組みました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害支援課
			枚方市総合防災訓練（ひこ防Z）では、福祉避難所の開設訓練を行いました。また、要配慮者等の輸送協力に関する協定を締結する大阪タクシー協会と連携し、一時避難所から移送された車いすの要配慮者を、避難スペースまで誘導を行う訓練を行いました。その他、福祉避難所の開設時に必要な衛生用品等の物資を提供する協定を締結する日本福祉用具供給協会と連携し、災害時に物資の受け入れの調整を行う机上訓練を行いました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康福祉政策課



施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 自然災害	ヘルプカードの配布	緊急時や災害時、困ったときに、周囲の配慮や手助けをお願いしやすくする「ヘルプカード」を配付します。	平成31年1月から、災害情報カードに替えて、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を窓口で交付する際に、手帳とともにヘルプカードを配布しています。このカードに、支援が必要な事項を具体的に記載して所持していただくことで、災害時の避難生活等においても、より適切な支援が行われるように取り組みました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害支援課
	緊急通報装置の設置	緊急通報装置の貸与事業については、継続して事業を実施し、ひとり暮らしなどの重度障害者の不安感の解消を図ります。	ひとり暮らしの身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者等に対して、緊急通報装置を貸与することにより、急病・災害等の緊急時における迅速かつ適切な対応を確保するとともに、ひとり暮らしの不安解消を図りました。令和6年3月31日現在、33名が緊急通報装置を利用中です。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害企画課
	火災予防点検の推進	ひとり暮らしなどの重度障害者世帯を対象とする火災予防点検事業については、今後も、対象世帯の把握に努めるとともに、利用を促します。また、事業の周知を図ります。	令和2年度まで、消防署、大阪ガスの協力を得て、事業を実施していましたが、電力自由化により大阪ガスによる火災予防点検事業は終了となりました。なお、4年に1回義務づけられている各事業者のガス設備定期保安点検により、安全は担保されています。	<b>終了（完了）</b> 事業目的を達成した取組	障害企画課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 自然災害	災害時における要配慮者の支援と福祉避難所の充実	地域防災計画に基づき、障害者の安否確認、避難誘導、避難所生活における配慮などの安全対策を的確に実施できる体制の整備に取り組みます。また、障害の特性に応じた避難生活ができる福祉避難所の充実等に取り組みます。	災害時避難行動要支援者名簿を作成することにより把握しています。名簿登録対象者は、①介護保険の要介護3～5の認定者、②身体障害者手帳1・2級を交付されている身体障害者（児）、③療育手帳Aを交付されている知的障害者（児）、④精神障害者保健福祉手帳1級を交付されている精神障害者（児）、⑤障害者総合支援法に基づくサービスを利用している難病患者。災害時には避難支援等に必要な範囲において、名簿情報を避難支援等関係者へ提供することに同意していない対象者についても避難支援等関係者へ提供し、災害時の安否確認、避難支援等に活用します。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	危機管理対策推進課
			昨年度に引き続き、指定福祉避難所の協定締結関係者との意見交換会を実施し、指定福祉避難所の拡充に向けた課題整理を行いました。また、枚方市総合防災訓練（ひこ防＼Z）では、要配慮者等の輸送協力に関する協定を締結している大阪タクシー協会と連携し、車いすの要配慮者を一時避難所から福祉避難所までタクシーで移送することを想定した訓練や、大阪府D-WATと連携した避難者へのアセスメントや福祉避難所へのトリアージ訓練等も行いました。	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	健康福祉政策課
			一定以上の障害のある方へ名簿情報の提供についての同意書を郵送し、避難行動要支援者名簿の整備を行いました。また、関係課と連携して、名簿情報の提供に同意された方の名簿を、民生委員や自主防災組織など避難支援等関係者へ提供を行いました。その他に、関係課と連携して、避難行動要支援者名簿管理システムの導入し、運用しています。また、要援護者の市内小学校区ごとの名簿を更新するとともに、ヘルプカード（必要な支援や連絡先を記載）を配布することで、障害者の安否確認から避難誘導、避難所生活などへの配慮が可能となる体制の整備を行っています。	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	障害支援課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 自然災害	災害時における要配慮者の支援と福祉避難所の充実	地域防災計画に基づき、障害者の安否確認、避難誘導、避難所生活における配慮などの安全対策を的確に実施できる体制の整備に取り組みます。また、障害の特性に応じた避難生活ができる福祉避難所の充実等に取り組みます。	枚方市総合防災訓練（ひこ防Z）では、福祉避難所の開設訓練を行いました。また、要配慮者等の輸送協力に関する協定を締結する大阪タクシー協会と連携し、一時避難所から移送された車いすの要配慮者を、避難スペースまで誘導を行う訓練を行いました。その他、福祉避難所の開設時に必要な衛生用品等の物資を提供する協定を締結する日本福祉用具供給協会と連携し、災害時に物資の受け入れの調整を行う机上訓練を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	健康福祉政策課
	難病患者・重症心身障害児等への災害時対応	指定難病患者で24時間人工呼吸器装着または気管切開を行っている患者とその家族、人工呼吸器装着児とその家族に対し、保健師が個別に、災害時に対応できるよう準備物や行動確認等の助言を行います。	人工呼吸器装着や気管切開を行っている難病患者への家庭訪問を実施し、災害時の備えや避難行動について確認を行いました。 また、災害時の安否確認や支援のために管理している災害時要援護者リストについて、情報の更新を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	保健予防課
			人工呼吸器装着児等の要援護児について、医療機関を含む関係機関と連携を図り、把握に努めました。 人工呼吸器装着児とその家族に対して、担当保健師が家庭訪問し、災害時の備えとして、使用機種やバッテリーの有無等の電源の確保、災害時の避難行動等について確認しました。保健師による災害時の要援護児の安否確認訓練を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター
(2) 感染症対策	緊急通報時手話通訳派遣事業（タブレット端末を利用）	聴覚障害者が新型コロナウイルス感染症の疑い等の感染症対策のため、緊急受診の際の手話通訳者派遣について、タブレット端末等を利用した遠隔手話通訳を実施します。	通常は、聴覚及び言語機能障害者とその家族が、病気又は事故により救急車を要請した場合等の緊急通報時において、健聴者との意思疎通を円滑にする必要があるときに緊急 通報 時手話 通訳者を派遣しました。しかしコロナ禍中、新型コロナウイルス感染症の疑い等あった場合は、通訳者と利用者の間での感染防止対策としてタブレット端末等を利用して遠隔手話通訳を行いました。令和5年度の実績は623件中、医療通訳145件でした。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課

### 3. 安心して生活できるサービスの確保と提供

#### 1 地域生活への支援

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 福祉サービス提供体制の充実と質の向上	訪問系サービス	様々な障害特性に応じて必要なサービス提供ができるよう、事業者と連携して、介護者の人材の資質の向上に努めます。	令和5年度の居宅介護の支給決定者数は1,085人、利用実績は365,851時間、重度訪問介護の支給決定者数は30人、利用実績は128,317時間、同行援護の支給決定者数は181人、利用実績は29,862時間、行動援護の支給決定者数は29人、利用実績は8,841時間でした。 事業者連絡会と連携し、研修等を通じて介護人材の質の向上に取り組みました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	短期入所サービス	事業所の新規開設や定員増等について事業者に働きかけます。また、緊急利用や医療ケアへの対応等様々なニーズに対応したサービスの確保に努めます。	令和5年度の支給決定人数は973人で、14,606日の短期入所の利用がありました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	日中活動系サービス	利用者ニーズに応じたサービス提供の確保に努めるとともに、事業者の支援施策として既存事業者の施設整備や定員増のほか、新たな日中活動の場の確保とこれを担いうる人材の育成に努めます。	・日中活動系サービスの事業所へ通所する在宅の精神障害者等に対して交通費の一部を助成する、「枚方市障害者通所支援補助事業」を実施、通所サービスの活用を促しました。 給付実績：40事業所を利用する331人 ・就労継続支援B型の事業所の新規整備に係る、枚方市障害者施設等整備費補助金の交付申請が採択され、令和4年度に開設されました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 福祉サービス提供体制の充実と質の向上	グループホーム	事業者に対し、新規開設等に係る整備補助・運営に係る支援を行い、グループホームの整備促進を図ります。また、世話人の養成講座を実施し、人材の確保・育成に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8・9月に「枚方市知的障害者グループホーム世話人養成研修」を催し、8名の方が受講され、8名が修了されました。また、2・3月には7名の方が受講され、7名が修了されました。</li> <li>・生活支援員が共同生活援助を行う住居に常駐し、又は巡回することにより行う日常生活上の援助のあった利用者の障害程度に応じて、枚方市グループホーム運営費補助金を交付することにより、グループホームの運営安定化を図るとともに、障害福祉サービスの提供体制の確保と質の向上を図りました。</li> </ul> 交付実績：27事業所 31,609,400円 なお、上記の各種補助事業等の令和6年開始に向けた見直しを行いました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度より、市内のグループホームにおいてより重度の障害者の地域移行を促進できるよう要綱改訂を行い、名称を枚方市グループホーム重度障害者対応改修補助金と変更しました。 交付実績：1事業所（バリアフリー化工事1件）</li> </ul>	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	障害企画課
	移動支援	増大し多様化する利用者ニーズに対応するため、ガイドヘルパー養成研修を実施する等、人材の確保・育成に努めるとともに、利用対象者の範囲や利用目的を見直すなど、制度の利便性向上に努めます。	7・3月に枚方市障害者ガイドヘルパー養成研修を実施し、64名に修了証を交付しました。また、移動支援の令和5年度の支給決定人数は1,966名、利用実績は190,492時間でした。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害企画課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 福祉サービス提供体制の充実と質の向上	地域活動支援センター	I型は、多様なニーズに対応するための拠点として各地域の障害者支援の中心的役割としての機能を高めます。II型・III型は、創作的活動、生産活動、交流の場等、障害者の日中活動の場として、計画的に整備を促進します。	地域活動支援センターI型は6事業所、II型は1事業所、III型は2事業所が枚方市内にあり、枚方市障害者地域生活支援事業として8法人に運営を委託しました。III型事業では、創作的活動、生産活動、社会との交流促進等を、II型事業では、機能訓練や社会適応訓練等が加わり、I型事業では、更に相談支援事業、社会基盤との連携を図るとともに、ボランティア育成や障害に対する理解促進のための啓発事業等を実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	日常生活用具・補装具	適宜、取扱品目や給付限度額を見直す等して、障害者の生活実態に見合ったサービス提供に努めます。	他市の状況を確認しながら、取扱品目の見直しをするなどして、障害者の生活実態に見合ったサービス提供に努めました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	高齢障害者の日常生活支援	高齢障害者のサービス利用は介護保険が優先ですが、介護保険にはない障害特性に由来する必要なサービスを提供します。また、障害固有のニーズを考慮したサービス提供に努めます。	障害福祉サービス利用者の中で介護保険サービスが優先される方をあらかじめ把握した上で、事前に介護認定の促しをおこない、切れ目なくサービスが受けられるように心がけ、また、介護保険サービスにない障害福祉サービス固有のものや、障害特性によって障害福祉サービスでの提供が適切と判断した方については、引き続き障害福祉サービスを提供しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	福祉事業者の指定・指導監督	指定障害福祉サービス事業者等の指定・指導監督等を行い、自立支援給付対象サービス等の質の確保及び自立支援給付の適正化を図ります。	所管の指定障害福祉サービス事業者等を対象とした集団指導や指定時研修等を通じて、関係法令や制度の趣旨・目的、自立支援給付費にかかる算定要件等について周知しました。 また、個別の事業所に対して実施した実地指導では、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、年度前半は訪問系事業所、年度後半は入所施設などを対象に実施し、指定基準及び報酬基準に沿った適切な運営・報酬算定が行われているか等の確認や改善指導等を行いました。また運営基準に違反している疑いがある等、特に必要と認められる事業所に監査を実施しました。 実地指導 令和3年度 1件、令和4年度 27件、令和5年度 36件	現状維持 これまでの取組を継続する	福祉指導監査課



施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(2) 多様なコミュニケーション	各種養成講座の実施	手話・要約筆記・点訳・音訳等の講習会を実施し、奉仕員の裾野を広げ、また、有資格者の拡大も目指します。	<p>[手話講習会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 午前の部40回 夜間の部40回</li> <li>・修了者数 35人（午前・夜間と合わせて）</li> </ul> <p>[手話ステップアップ講座]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 午後の部20回 夜間の部20回</li> <li>・修了者数 15人（午後・夜間と合わせて）</li> </ul> <p>[点訳講習会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 10回</li> <li>・修了者数 6人</li> </ul> <p>[音訳講習会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出す実技を省略し、6回講習を実施。</li> <li>・修了者数 5人</li> </ul>	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	手話通訳者・要約筆記者等の派遣	利用者のニーズに応じて、手話通訳者・要約筆記者等を派遣します。また、登録手話通訳者のスキルアップを図るための現任研修を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要約筆記通訳事業 派遣件数14件 派遣時間92.5時間</li> <li>・手話通訳派遣事業 派遣件数1,183件 派遣時間2,302.5時間</li> <li>・登録手話通訳者現任研修 8回実施し、最大36人が受講されました。</li> </ul>	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	点字・音声・手話等による情報提供	<p>広報ひらかた、枚方市議会報、ひらかた健康便利帳など市政情報を点字・音声で提供します。</p> <p>市主催事業について、手話通訳者の設置を働きかけます。</p> <p>また、市のホームページについて、音声ガイドを設けるなど、ユニバーサルデザインの充実を図ります。</p>	<p>広報ひらかた、枚方市議会報、ひらかた健康便利帳など市政情報を点字・音声で提供しました。</p> <p>市主催事業について、手話通訳者の設置を働きかけました。</p> <p>また、市のホームページについて、音声ガイドを設けるなど、ユニバーサルデザインの充実を図りました。</p>	現状維持 これまでの取組を継続する	広報プロモーション課
			「ひらかた健康便利帳」の点訳・録音盤を作成し、対象者へ提供しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	まるっとこどもセンター

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(2) 多様な手法によるコミュニケーション支援	点字・音声・手話による情報提供	広報ひらかた、枚方市議会報、ひらかた健康便利帳など市政情報を点字・音声で提供します。 市主催事業について、手話通訳者の設置を働きかけます。 また、市のホームページについて、音声ガイドを設けるなど、ユニバーサルデザインの充実を図ります。	令和5年度に開催した、枚方市社会福祉審議会障害福祉専門分科会及び自立支援協議会全体会では、手話通訳者に加えて、拡大文字による資料の作成も行いました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害企画課
			前年度と同様に、令和5年度も枚方市議会報の内容を全文掲載した点字・声の議会報を発行し、全ての希望者に配布するとともに、枚方市議会報と市議会ホームページで点字・声の議会報のPR文を掲載しました。また、声の議会報の音声データについても引き続き市議会ホームページで公開しました。 手話通訳者の配置については、令和5年度は依頼がありませんでした。今後も枚方市議会報や市議会ホームページで周知を図ります。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	議事調査課
	重度障害者入院時コミュニケーション支援	重度訪問介護および行動援護等の支給決定を受けており、コミュニケーション支援が必要な重度の障害者が入院した場合に、医療機関との意思疎通を円滑に図ることができるよう支援します。	入院時のコミュニケーション支援のニーズに対応するため、より多くの障害者が安定した入院生活を送ることができるよう、令和元年10月に本事業の要綱を改正し、対象者を拡大しました。令和5年度の利用者は0名でした。	<b>見直し</b> 取組の手法や、要件、対象、事業規模などを見直す	障害企画課

## 2 緊急時の対応

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 障害ニーズに応じた対応	緊急通報装置の設置	緊急通報装置の貸与事業については、継続して事業を実施し、ひとり暮らしなどの重度障害者の不安感の解消を図ります。	ひとり暮らしの身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者等に対して、緊急通報装置を貸与することにより、急病・災害等の緊急時における迅速かつ適切な対応を確保するとともに、ひとり暮らしの不安解消を図りました。令和6年3月31日現在、33名が緊急通報装置を利用中です。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害企画課
	地域生活支援拠点の整備	相談、一人暮らしやグループホーム等の体験の機会、緊急時の受入れや対応等の機能を有した地域生活支援拠点の整備を進めます。	障害福祉計画（第6期）において、令和5年度末までの設置を目標と掲げていた地域生活支援拠点について、毎月開催の枚方市自立支援協議会幹事会及び、枚方市自立支援協議会相談支援部会場で検討を行い、未整備である2つの機能「緊急時の受け入れ」及び「体験の場」の設置に向けて取り組みました。	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	障害企画課
	ネット119緊急通報システムの活用	聴覚、音声・言語又はそしゃく機能の障害により、音声による119番通報が困難な方のために枚方寝屋川消防組合等が提供するネット119緊急通報システムの周知と利用促進に努めます。	ネット119緊急通報システムの利用を希望される障害のある方に申請手続きの案内を行いました。また、ネット119緊急通報システムのメンテナンス等、利用者に影響が出る事象が発生した場合に、枚方寝屋川消防組合と情報共有を行い、連携を図りました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害企画課

### 3 保健・医療との連携

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保健・医療との連携	健康相談事業の推進	生活習慣病や日常の健康管理などについて、保健師や管理栄養士などの専門職員による指導や助言を行います。	定例での健康相談・栄養相談の実施や電話・窓口での個別相談に加え、各種イベントなどでブースを設けました。また、疾病の重症化予防のために訪問による個別指導を実施しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康づくり課
			健康福祉相談センター北部リーフで管理栄養士による相談を月1回（定例）実施。保健師による健康相談を随時実施しました。	<b>見直し</b> 取組の手法や、要件、対象、事業規模などを見直す	まるっとこどもセンター 健康づくり課
	訪問指導事業の推進	保健師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・歯科衛生士などの保健センターの専門スタッフによる訪問指導事業に取り組みます。	必要に応じ、保健師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士による訪問指導を引き続き実施しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康づくり課
	健康教育事業の推進	生活習慣病の予防や健康の保持・増進が図れるよう、健康に関する正しい知識を普及する健康教育事業に取り組みます。	市民や市内企業からの依頼により地域に出向いて、専門職による健康に関する講座を実施しました。また健康に関する講座や重症化予防の教室などを保健センター、生涯学習市民センター等で実施しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	健康づくり課
			出前講座などの依頼により地域に出向いて、健康に関する講座を実施しました。また、市民からの依頼や保健師からの働きかけによって地域の集まりへ出向き、健康教育を11回実施しました。	<b>見直し</b> 取組の手法や、要件、対象、事業規模などを見直す	まるっとこどもセンター 健康づくり課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保健・医療との連携	口腔保健の推進	障害者（児）の入所・通所施設で歯科健康診査や口腔衛生指導が実施できるよう環境整備に努める等、障害者・児の口腔ケアや口腔機能の向上を図ります。	障害者（児）の入所・通所施設に出向き、歯科健康診査および、口腔衛生指導を行いました。また、希望施設に対して、施設職員や通所・入所者に対し、健康教育や歯磨き指導を実施しました。 平成30年度22施設 203人、平成31年度 22施設 197人、令和2年度19施設161人、令和3年度 23施設209人、令和4年度20施設191人、令和5年度20施設173人（歯科健康診査実績）。 令和5年度15施設287人（健康教育・口腔衛生指導）	現状維持 これまでの取組を継続する	健康づくり課
	難病患者の療養支援	指定難病患者とその家族の在宅療養支援を目的に保健師や専門職による相談事業、訪問指導事業、医療講演会、患者家族交流会等を実施します。また、支援スタッフの難病に関する知識・理解の促進や支援技術の向上を図るため、関係機関等に研修会を実施します。	リハビリ専門職や難病患者就労サポーター等による相談事業を計34回実施、相談延べ件数は59件（うち訪問延べ件数は20件）でした。保健師の訪問延べ件数は計269件でした。 ALS患者とその家族を対象とする支援として、患者家族を対象とした交流会を開催し5名が参加しました。またALS患者を対象に、コミュニケーション機器相談会を開催し、7名が参加しました。 訪問相談員育成事業として、訪問看護ステーションの看護職等、在宅医療に従事する専門職を対象に、人工呼吸器を使用している難病患者への災害時支援について研修会を開催し28名が参加しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	保健予防課
	精神疾患患者に対する相談体制の充実	精神疾患を有する者、または疑いがある者またはその家族に対して、精神科医や臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等による相談を実施します。精神疾患の早期発見、早期治療の推進等に向けた相談を行います。	令和5年度の相談件数は延べ2,959件であり、うち訪問については延べ494件実施しました。 保健所で実施している精神保健相談については、相談件数は増加しており、うつや統合失調症、アルコール問題・ギャンブルに関する相談など症状の相談と精神疾患に伴う生活相談が断続的に続いています。 精神疾患の早期発見・早期治療を目的とした相談については、受療支援が延べ214件（うち訪問60件）、精神科医師による診断・判定が延べ133件でした。 内容により早急に精神保健相談として対応することが必要なものについては、相談者の同意を経て相談を受理し、早期発見・治療に向けた支援を開始することが出来ています。 令和5年度は精神保健の予防対策として、こころのサポーター養成研修を市民対象にオンラインで2回実施しました。また希望が多かった対面での養成研修も実施し、定員を大幅に超える問い合わせがあり、精神保健の予防対策への関心の高さが伺えました。 今後も引き続き、保健所の相談支援について周知を図ると共に、早期発見・治療に向けた支援を実施します。	現状維持 これまでの取組を継続する	保健医療課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 保健・医療との連携	在宅医療体制の充実	枚方市内の三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）や訪問看護ステーションと連携し、在宅医療体制の充実に取り組みます。	令和5年11月、圏域の各市における在宅医療及び介護連携推進事業の現状を共有し、在宅医療の連携に係る取り組みについて意見交換を行う会議（「北河内在宅医療懇話会」）が開催され、第8次大阪府保健医療計画（在宅医療分野）圏域編（案）についての情報提供、在宅医療の現状・取組状況報告等が行われました。	現状維持 これまでの取組を継続する	保健医療課
	障害者歯科診療	枚方市歯科医師会と連携し障害者の歯科診療の受診機会をさらに増やすなど診療体制の充実に努めます。	枚方市休日歯科急病診療所（枚方市医師会館内）で、毎週木曜日の午後1時～5時と月2回の土曜日の午後2時～6時に診察を実施し、よって障害者等の歯科診療の機会の確保を図りました。 令和5年度：延べ901人受診	拡充 取組を発展・拡充させる	障害企画課
	在宅難病患者の地域医療	難病患者・家族が安心して在宅療養ができる地域づくりに取り組むために、難病専門医、かかりつけ医、地域の医療関係職種等の連携を強化し、医療ネットワークを構築します。	健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業 枚方市難病対策 難病ネットワーク部会 として、令和5年7月25日に関西医科大学附属病院（難病センター）と事務局会議を開催し、令和6年2月28日に実務者会議を開催しました。実務者会議は、人工呼吸器を使用する在宅難病患者への災害時対策や、レスパイト支援について検討を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	保健予防課
	病院からの地域移行	枚方市自立支援協議会精神障害者地域生活支援部会において医療機関等と連携し、退院促進に取り組めます。	枚方市自立支援協議会精神障害者地域生活支援部会が実施してきた枚方市内の精神科医療機関における長期入院患者等への訪問面接について、事務局会議を中心に、面接の再開に向けた検討を進めるとともに、地域での支援課題に対する取組についても検討を行いました。また、定期的に部会を開催し、関係機関との連携強化や退院促進に関する意見交換を実施しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課



#### 4. 自分らしい生き方をみつける・選ぶ

##### 1 就労に向けた支援

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 就労にむけた支援	障害者合同就職面接会	ハローワーク枚方や枚方市障害者就業・生活支援センターと連携して、「障害者合同就職面接会」の開催を通じて、一般企業等への啓発にも努めます。	企業開拓については、ハローワーク枚方や枚方市障害者就業・生活支援センターが中心となって進めるなど、新たな雇用を目指した取り組みを行いました。また、毎年1回開催している「障害者合同面接会」は、令和6年1月の開催で20回目を迎えるとともに、この面接会による就職が実現しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	職場体験機会の提供	本市での「庁舎内実習」を実施して、障害のある人の職業体験機会の提供に取り組みます。	庁舎内実習は、毎年度、各部署で実習生を受け入れ、その中から、一般就労につながった方も出ています。また、一般企業等においても、ハローワーク枚方や枚方市障害者就業・生活支援センターが中心となって実習の受け入れを呼びかけており、職業体験機会の拡大に取り組みしました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	チャレンジ雇用 障害のある人への就労支援	平成29年度から実施している、障害のある人を一定期間本市職員として雇用する「チャレンジ雇用」制度を、継続して実施していきます。	障害のある方を臨時職員として1か月程度短期雇用する等の検証による実績を踏まえ、将来の就労に向けた更なる支援として、平成29年度から「チャレンジ雇用」を実施しています。令和5年度については、採用日の見直しを行ったため、募集は行わず、令和6年4月に募集を行うこととした。	現状維持 これまでの取組を継続する	人事課
			平成29年度からチャレンジ雇用を開始し、非常勤職員として1年間（1回限り更新可）雇用して支援を行いました。体調不良などのため退職となった方もありましたが、その中から、3名の方について民間企業への就職が実現しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	市職員への雇用	本市の障害者活躍推進計画で目標に掲げる障害者雇用率の実現に向けて、職員採用試験において障害者枠を設けるとともに、非常勤職員等の採用についても同様に取り組んでいきます。	令和5年度の障害者雇用率は市全体で2.87%であり、目標に掲げる3%が未達の状態です。雇用率向上を見据え、障害者の社会進出、雇用促進を目的に、引き続き、事務員の区分に障害者枠を設けて職員採用試験を実施し、令和6年4月に3名を雇用しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	人事課

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
就労にむけた支援 (1)	日中活動系サービス	利用者ニーズに応じたサービス提供の確保に努めるとともに、既存事業所の施設整備や定員増のほか、新たな日中活動の場の確保とこれを担う人材の育成等事業者の支援施策を講じます。	・日中活動系サービスの事業所へ通所する在宅の精神障害者等に対して交通費の一部を助成する、「枚方市障害者通所支援補助事業」を実施、通所サービスの活用を促しました。 給付実績：40事業所を利用する331人 ・就労継続支援B型の事業所の新規整備に係る、枚方市障害者施設等整備費補助金の交付申請が採択され、令和4年度に開設されました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	就労相談及び職場定着支援	枚方市障害者就業・生活支援センターが軸となって、ハローワーク等の関係機関や企業との連絡調整を進めながら、就業、社会生活上の相談支援や職場定着のための支援に取り組みます。	枚方市障害者就業・生活支援センターが中心となって、関係機関で構成する実務担当者会議を月1回開催し、障害者の就労支援について議論を行うとともに、合同就職面接会やジョブガイダンス等、一般就労の実現に向けた取り組みを実施しました。 また、枚方市自立支援協議会就労支援部会では市内の障害者事業所を対象に連絡会を立ち上げ、就労支援員のスキルアップ向上を目的としたセミナーや事例報告会等を開催しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
(3) 工賃向上に向けた支援	障害者の工賃改善	「福祉バザー」、「ふれあいフェスティバル」や総合福祉会館や市駅ふれあいコーナー内の販売コーナー等、授産品の販促活動に継続的に取り組んでいきます。また、ひらかた共同受注・優先調達ネットワークの取り組みへの支援を通じて、障害者の工賃アップにつなげていきます。	障害者の就労支援と工賃の向上を目的に「福祉バザー」や「ラポールひらかた」、「菅原生涯学習センター」にて授産品や飲食物の販売促進を継続的に実施していましたが、「ラポールひらかた」内の喫茶コーナーは令和4年度末に閉鎖しました。 また、就労支援事務局連絡において、複数の事業所が共同受注・優先調達ワーキングチームに参加し、共同受注センターについて研究を行った結果、令和元年度から「ひらかた共同受注・優先調達ネットワーク」を立ち上げ、活動を行っています。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課
	優先調達方針に基づく障害者就労施設等からの物品等の調達	優先調達方針に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達を促進します。	平成25年4月より障害者優先調達推進法が施行されたことを受け、市役所をはじめ、市内企業、一般市民等が発注可能な障害福祉サービス事業所で取り扱っている物品やサービスを掲載したカタログを作成し、各部署に呼びかけることで、障害者就労施設等の受注機会の増大を図りました。なお、カタログについては、これまでに3度、改訂を行っています。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課

## 2 社会参加と多様な学習への支援

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 生涯学習の推進	社会参加・自立を助ける学習活動	生涯学習事業など、様々な場面で学習機会を提供するとともに、障害者の主体的な学習を支援します。	各生涯学習市民センターにおいて、障害者（関係）団体に対し、施設の早期予約受付、利用料減免、優先利用可の部屋を設けることなどにより、障害者の活動の機会を広く提供しました。また、点字版のセンター案内のリーフレットを設置しています。	現状維持 これまでの取組を継続する	文化生涯学習課
			令和6年1月8日に開催した枚方市「はたちのつどい」において、聴覚障害者への支援として市長および議長からのビデオレターに字幕スーパーを挿入し、式典会場やホームページで放映しました。また、希望に応じて手話通訳者を配置できる体制をとるとともに、視覚障害者に対しても全19会場に点字版のプログラムを準備しました。社会教育事業として行う各講座においても、希望する聴覚障害者に対して手話通訳者や要約筆記者を確保する体制をとりました。	現状維持 これまでの取組を継続する	教育政策課
(2) 文化・芸術活動への支援	文化・芸術活動の支援	障害者の生きがいをづくりと、様々な世代にわたって交流を深めていけるよう、各種の文化・芸術活動を支援します。	生涯学習市民センターのロビー等のスペースに、創作活動の発表の場を設け、障害者（関係）団体を含め、広く市民による展示・発表の機会の場を提供しています。	現状維持 これまでの取組を継続する	文化生涯学習課
	図書館サービス	大活字図書、点字・録音資料、手話・字幕付き映像資料を充実し、対面読書サービスや手話で楽しむおはなし会等バリアフリー行事の実施やICT機器を活用したサービスの検討等を行います。	大活字図書 を全館で268冊購入・寄贈受入れ、録音図書（デージー図書）を51タイトル製作・購入・寄贈受入れするなど資料の充実を図りました。また、対面読書 を全館 で100回（内遠隔対面読書は53回）実施 しました。行事 は、中央図書館では「手話 でたのしむおはなし会 」を11回開催（参加者延べ94人）。「手話 ブックトーク」を1回開催（参加者20人）。読書バリアフリー講演会「知的障害者の読書を支援する～わかりやすい図書と代読ボランティアの養成・活動～」、「LGBTQって何？～性の多様性と違いを認め合う社会とは～」を開催（参加者延べ42人）。バリアフリー映画上映会は中央図書館で「コーダあいのうた」を1回（参加者20人）、牧野図書館で「グーグーだって猫である」を1回（参加者44人）を開催しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	中央図書館

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(3) スポーツ・レクリエーション活動への支援	スポーツ・レクリエーション活動の充実	風船バレーや卓球等のスポーツ事業を定期的実施し、障害者にスポーツを楽しむ機会を提供するとともに、卓球、ボッチャ、フライングディスク等、利用者ニーズの高い種目を選んで、スポーツ・レクリエーション教室を開催します。	令和5年度は枚方市障害者スポーツ協会に委託し、実施するスポーツの種目を増やし、多くの障害者にスポーツを楽しむ機会を提供しました。 ・実施内容：モルック＆サウンドテーブルテニス・eスポーツ体験会・車いすテニス体験会（各1回） ・参加人数：55名	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
			総合体育館および渚市民体育館において、障害者スポーツの普及の支援を行いました。  ・障害者スポーツスクエア [総合体育館] 延べ127人 月1回開催 [渚市民体育館] 延べ31人 月1回開催（3月中止） ・車いすバスケットボール体験 [渚市民体育館] 12月開催 参加者12人 [渚市民体育館] 3月開催 参加者12人 ・アシックスアスリート事業 伊丹スーパーフェニックス 車いすバスケットボール体験会 [渚市民体育館] 3月開催 参加者15人	現状維持 これまでの取組を継続する	スポーツ振興課
	障害者スポーツ活動への支援の充実	市立総合スポーツセンター等での、障害者のスポーツ環境の整備や、障害者のレクリエーション活動等の支援に取り組みます。	オストメイト対応トイレを設置し、安心して利用できる環境を整備しています。  総合体育館：多目的トイレ1か所 陸上競技場：多目的トイレ1か所 伊加賀体育館：男子1か所 女子1か所 渚市民体育館：男女兼用2か所	現状維持 これまでの取組を継続する	スポーツ振興課

### 3 新しい生活様式の実践

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 多様な変化に対応した社会参加	遠隔手話通訳対応（タブレット端末を利用）	遠隔によるタブレット端末を利用した手話通訳を、令和2年度は3支所及び健康福祉総合相談担当窓口で実施。また緊急時の対応においても実施。今後は、個人派遣についても対応できるよう整備を行います。	昨年度に引き続き、障害企画課、市民室（本館1階、3支所）、国民健康保険課、健康福祉総合相談課、中央図書館にタブレットを設置し、運用を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	DX推進課
			遠隔手話通訳サービス 令和3年4月1日から新規事業として遠隔手話通訳サービスを始めました。 ・令和5年度の利用者数：79名 ・利用件数：623件	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
(2) 先進技術による支援ツールの活用	行政サービスの電子申請に向けた取り組み	電子申請により、市民の利便性の向上を図るため、対応可能な業務から順次対応していきます。	市の様々な手続きのオンライン化を図るため、市で導入している汎用的電子申請サービス及び国の電子申請サービスである「ぴったりサービス」を活用し、全庁での拡充を進めました。これらの電子申請サービスの活用により、全庁で287の手続きをオンライン化（令和6年2月29日時点）しました。	拡充 取組を発展・拡充させる	DX推進課

## 5. 身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供

### 1 相談・支援体制の充実

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 相談・支援体制の充実ときめ細やかな情報提供	障害者の相談支援体制	障害者からの相談に応じ、必要な情報提供および助言、サービスの利用など関係機関と連携しつつ、地域の社会資源を活用し必要な援助を行います。また、センター間の連携の機能強化を行い、より専門的な対応ができるように、相談支援センターの体制の充実を図ります。	市内9か所の地域活動支援センターのうち7か所を相談支援機能を併せ持つ障害者地域生活支援事業における相談支援センターとし、相談支援事業を委託しています。福祉サービスの利用援助、社会資源を活用するための援助や支援等を委託内容とし、そのうち2法人はピアカウンセリングを行うなど、利用を希望する障害者に対応しています。また、そのうちの3法人を、基幹相談支援センターとして位置付け、身体・知的・精神障害者等に対応した総合的な相談支援の窓口の設置や、特定相談支援事業所及び一般相談支援事業所が困難と感じる事例への後方支援などを行うことで、センター間の連携の機能強化を行い、より専門的な対応ができるよう相談支援センターの体制の充実に努めました。また、附属機関にて委託事業所の事業評価について協議しました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	枚方市自立支援協議会	相談支援センターをはじめ、地域の関係機関が集まり、障害者が自立した地域生活を営む上で必要となるサービス基盤や人材社会資源の確保などについて検討を行います。	毎月、枚方市自立支援協議会幹事会を開催し、各部会からの報告や今後のサービス基盤整備の方向性等について協議を行いました。また毎年度開催することとしている枚方市自立支援協議会全体会を開催し、相談支援センターの実績報告等について、評価・検証を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害企画課
	病院、入所施設からの地域移行	退院・退所した障害者が地域で自立した生活を送れるよう、関係機関や相談支援センターとともに、必要な相談や支援を行える体制づくりを進めます。	枚方市自立支援協議会の専門分科会として精神障害者地域生活支援部会を設置し、関係機関の協力のもと、枚方市管内精神科病院の社会的入院患者に対し訪問面接等を実施し、地域移行の促進を行いました。	現状維持 これまでの取組を継続する	障害支援課



施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 相談・支援体制の充実ときめ細やかな情報提供	地域定着支援	地域移行後や「ひきこもり」等、地域との接点が少ない障害者に対し、地域でいきいきと安定した生活を営めるよう訪問などする中で、必要な支援を地域の社会資源を活用しながら、関係機関と連携し進めます。	安心して地域生活が営めるよう、関係機関と連携し、必要な情報交換を行いながら、支援を行いました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害支援課
	地域生活支援拠点の整備	相談、一人暮らしやグループホーム等の体験の機会の場合、緊急時の受け入れや対応等の機能を有した地域生活支援拠点の整備を進めます。	障害福祉計画（第6期）において、令和5年度末までの設置を目標と掲げていた地域生活支援拠点について、毎月開催の枚方市自立支援協議会幹事会及び、枚方市自立支援協議会相談支援部会の場合、検討を行い、未整備である2つの機能「緊急時の受け入れ」及び「体験の場」の設置に向けて取り組みました。	<b>拡充</b> 取組を発展・拡充させる	障害企画課

## 2 関係機関との連携による支援の充実

施策	施策名	取り組み	令和5年度実績		所管課
			取り組み内容	今後の方向	
(1) 関係機関との連携による支援の充実	多様な手法によるわかりやすい情報提供	障害者の福祉サービス制度利用を促進するために、サービスの内容、手続きの方法等を掲載したパンフレットやポスター、広報ひらかた、ホームページ、窓口での対応などによってわかりやすい情報提供に努めます。	障害者手帳を交付する際、障害者に係る福祉制度や手続き方法を掲載した冊子「福祉のてびき」を窓口で配布し、内容を説明しました。 また、市内各支所及び障害者相談支援センター7か所への冊子の設置や枚方市ホームページへの冊子データの掲載をすることにより、福祉サービス制度の周知に努めました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害企画課
	医療的ケア児等支援連絡会議	連絡会議を通じ、医療的ケア児の在宅生活を支援する関係機関による意見交換や情報提供を図ります。	医療的ケア児等支援連絡会議を開催し、医療的ケア児に関する情報共有を図るとともに、関係機関から報告のあった支援の現場での課題について意見交換を実施しました。	<b>現状維持</b> これまでの取組を継続する	障害支援課